

平成 18 年度事業の経過

1：事業の経過

(研究会の展開方法)

本年度は、前年度まで、文化財保存のための啓蒙あるいは方法論、周辺領域などについてあるいは、地域貢献、文化財情報学と関連研究などを討論した。

これらの研究会では、文化財保存・修復・活用など互いにリンクする点についての学問や方法論について理解を深める事ができた。しかしながら、産学官連携などにおける役割分担では、各々の得意分野を持ち寄って事業を展開するというのが基本的な姿勢であるが、事業にかかる費用や時間の分担が必ずしも公平ではなく、また、各々の組織が改編などで継続的に事業を展開するには、不備な点もある。また、外部から見た場合、組織関係、責任の所在など理解しがたい点があるとも考えられる。

そこで、事業を一本化する方法があるのではないかと議論したところ、昨今、地域の文化事業において採用されてきている、指定管理者制度に注目し、企業をあげて積極的に応募している国際航業株式会社 文化事業部 文化財研究室 主任研究員 稲垣正宏氏を招き、第7回研究会を開催し、同氏に「博物館・美術館の管理委託における現状と問題点」について発表して頂き、その後、出席者と発表者の間で指定管理制度についてディスカッションを行い、文化財を取り巻く事業についての理解を深めた。

(シンポジウム)

本センターで主催したシンポジウムは、高梁市、倉敷市内で開催したが、研究成果の中間報告を研究発表としてできるだけ多くの方々に外部評価していただくため、キャンパスイノベーションセンター東京地区（東京都港区芝浦）で「文化財科学解釈学的研究と展望」と題しシンポジウムを開催した。本センター3名の研究員の研究発表と財団法人大原美術館理事長大原謙一郎氏をゲストパネラーに迎え、同氏からのセンター事業についての講評と「文化財の過去から未来へ」というテーマでパネルディスカッションを行った。参加者の構成は、文化財に興味をもつ一般参加者、日常文化財保存・修復業務に携わる文化財関連機関、文化財修復事業所からの専門家等、合わせて118名の参加があった。ディスカッション後半では、聴衆者もディスカッションに参加して頂き、文化財から文化事業、文化論まで議論し準備していた時間を大きく上回った。また、本シンポジウムについてのアンケートも実施した。

文化財科学解釈学的研究を理解していただき、未来へ向けた文化財保存修復の意味やそれらを取り巻く地域・人間のありかたなどに理解を深めていただいたように思える。

2：事業の概要

<研究会・シンポジウムの開催>

・第7回研究会

日時：平成18年11月17日（金）

場所：吉備国際大学13号館文化財共同研究室

発表：「博物館・美術館の管理委託における現状と問題点」

発表者：稲垣正宏 氏（国際航業株式会社 文化事業部 主任研究員）

発表概要：

指定管理者制度の概要とその応募について企業からの視点に立った発表。国・地方公共団体所轄の法人以外の法人が応募する事についての意義や問題点などに触れ、採択状況の報告と企業・学校法人などが採択された事例を紹介。

司会：高木秀明 氏

・学術フロンティアシンポジウム「文化財科学解釈学的研究と展望」

日時：平成18年9月2日（土）

場所：キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場

趣旨：

吉備国際大学文化財総合研究センターは、平成15年度文部科学省私立大学高度化推進事業（学術フロンティア）に採択され、事業開始から3年が経過した。採択課題である「文化財の継承と新技術創出に関する科学解釈学的研究」の研究結果発表を行い、学術的な側面と地域貢献や産学官連携など社会的な側面の評価を目的とした。研究成果発表は、現在までのシンポジウムや学会発表、論文発表を行っていない未発表のテーマで構成した。パネルディスカッションでは、ゲストパネラーから研究成果を除くセンター運営状況について講評を受け、一般聴衆からはコメント・評価を頂き今後の活動の参考とする。

発表：

「李朝屏風 様式と構造」

馬場秀雄 氏（吉備国際大学文化財総合研究センター 研究員・吉備国際大学 教授）

「額縁からみる児島虎次郎」

大原秀之 氏（吉備国際大学文化財総合研究センター 研究員・吉備国際大学 教授）

「浮世絵版画に見られる青」

下山 進 氏（吉備国際大学文化財総合研究センター センター長・吉備国際大学 教授）

パネルディスカッション テーマ：文化財の過去から未来へ

パネラー : 馬場秀雄 氏、大原秀之 氏、下山 進 氏、

ゲストパネラー : 大原謙一郎 氏（財団法人大原美術館 理事長）

コーディネーター：白井洋輔 氏（吉備国際大学学術フロンティア委員会 委員長・
吉備国際大学 教授）

司会：鈴木英治 氏（吉備国際大学文化財総合研究センター 研究員・吉備国際大学 教授）

（アンケート結果）

＜アンケートの内容＞

設問の中の5段階評価については、5～1の中から適切な数字に○をつけてください。

1. このシンポジウムの開催をどのようにしてお知りになりましたか？
()
2. 「文化財修復」に関連してお教えてください。A～Cのいずれに属しますか？
A. 関連のある職業に従事している。
B. 学習／研究したことがある。
C. 関連がない。
3. 研究内容にユニークさや新規性があると思われましたか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
大いにある 無
4. 研究内容は社会に役立つと思いますか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
大いに役立つ 役立た無
5. 研究内容は学術的に評価できると思いますか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
できる できない
6. 今回のようなシンポジウムについて、開催時期、場所、内容などお気づきの点がありましたら自由にお書きください。

<アンケート結果>

回答者 41 名

| 1. 開催をどのように知ったか | | |
|-----------------|------|-----|
| 知人 | 20 人 | 49% |
| ダイレクトメール | 13 | 32 |
| 美術館に置かれたチラシ | 3 | 7 |
| ホームページ | 2 | 5 |
| 無回答 | 3 | 7 |

| 2. 文化財修復への関連性 | | |
|----------------|------|-----|
| 関連のある職業に従事している | 14 人 | 17% |
| 学習／研究したことがある | 7 | 49 |
| 関連がない | 20 | 34 |

| 3. 研究内容のユニークさ・新規性 | | |
|-------------------|------|-----|
| 5（大いにある） | 18 人 | 44% |
| 4 | 16 | 39 |
| 3 | 6 | 15 |
| 2 | 1 | 2 |
| 1（無） | 0 | 0 |

| 4. 研究内容の社会への有用性 | | |
|-----------------|------|-----|
| 5 (大いに役立つ) | 23 人 | 56% |
| 4 | 13 | 32 |
| 3 | 3 | 7 |
| 2 | 2 | 5 |
| 1 (役立た無い) | 0 | 0 |

| 5. 研究内容の学術的評価 | | |
|---------------|------|-----|
| 5 (できる) | 23 人 | 56% |
| 4 | 13 | 32 |
| 3 | 3 | 7 |
| 2 | 2 | 5 |
| 1 (できない) | 0 | 0 |

アンケート集計結果より、アンケート回答者の 66%は、文化財修復についての知識を持ち、研究内容に対する評価に有効性があると考えられる。3 分野の研究発表については、研究内容のユニークさ・新規性、社会的有用性、学術的評価の点で5を優秀とする5段階評価では、5 および4段階と秀でていているという評価を受けた。

正 誤 表

紀要第3号において下記の通り誤った表記の箇所がありました。
正誤表にて訂正いたします。

| | (誤) | (正) |
|--------|-------------------------|---------|
| 6 ページ | 6～7 行目 「隔? 記」 | → 「隔莫記」 |
| 同 | 14 行目 「隔? 記」 | → 「隔莫記」 |
| 60 ページ | 27～28 行目 「本研究は・・・行われた」。 | → 削除 |

吉備国際大学文化財総合研究センター研究員業績リスト

(2006年1月1日－2006年12月31日)

研究員は50音順で研究活動歴は次のように分類した。

- I 著訳書；著書の名称、単・共著の別、担当頁、発行年月日、発行所
- II 学術論文；論文の名称、単・共著の別、発表雑誌の名称、巻・号、掲載頁、発行年月日
- III その他（学会発表・修復実績・図録執筆等）

臼井 洋輔（うすい ようすけ）

I 著訳書

- 1) 「高梁市指定重要文化財薬師院仁王門保存修理報告書」監修、2006年5月31日、2005年12月31日
- 2) 「岡山の文化財、岡山の美術」（執筆）、『岡山検定』公式テキスト、岡山商工会議所編、吉備人出版、2006年10月1日
- 3) 「ランドマーク松山城の歴史から何を学ぶか」（執筆）、高梁体験・吉備国際大学、2006年10月28日
- 4) 「吹屋ベンガラからのメッセージ」（執筆）、高梁学園・吉備国際大学、2006年12月9日
- 5) 「岡山文化のエッセンス『吉備の歴史と文化』」、地域文化ライブラリー2、早稲田大学日本地域文化研究所、行人社、2006年12月20日

II 学術論文

- 1) 「日本で失われたビーズ製作技法を西アフリカに求めて」、国際社会学研究所紀要、13号、2006年3月31日
- 2) 「八丈島から宇喜多秀家を思う」、『岡山の自然と文化』25(執筆)、岡山県郷土文化財団、2006年3月31日

III その他

(報道掲載記事)

- 1) 「倉敷観光の模擬検定」、山陽新聞朝刊記事、2006年2月4日
- 2) 「最高賞受賞記事」、山陽新聞、2006年3月12日
- 3) 「最高賞受賞記事」、毎日新聞、2006年3月12日
- 4) 「高梁学習観光フォーラム記事」、山陽新聞、2006年3月19日
- 5) 「岡山県重要無形文化財保持者浦上善次氏を悼む」、山陽新聞追悼文署名原稿、2006年3月31日
- 6) 『「文化」物差しの観光を』、毎日新聞「金曜サロン」欄記事、2006年4月7日
- 7) 吉備国際大学第16回公開講座新聞記事『多世代関係重視』、山陽新聞地方版、2006年5月16日
- 8) 「学習観光事業理解へ(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年9月13日

- 9) 「地域再発見・THE BIZEN・刀(新聞特集報道)」、山陽新聞朝刊(全国新聞大会特集 5頁全面)、2006年10月6日
- 10) 「学習観光ツアースタート(新聞報道)」、山陽新聞、2006年10月29日
- 11) 「備中松山城魅力に迫る(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年10月31日
- 12) 「伯備沿線図で高梁市紹介(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年11月15日
- 13) 「豪商の邸宅などを巡る(新聞報道)」、山陽新聞、2006年11月18日
- 14) 「自然や歴史文化活かした事業を(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年11月22日
- 15) 「桃太郎は現代への戒め(新聞報道)」、岡山日々新聞記事、2006年12月6日
- 16) 「吹屋の産業史・学習観光(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年12月12日
- 17) 「高梁の『学習観光』検証(新聞報道)」、山陽新聞高梁・新見圏版、2006年12月17日
- 18) 「観光振興追い風(新聞報道)」、山陽新聞、2006年12月30日

(公開講座)

- 1) 吉備国際大学第16回公開講座『日本のビーズ、アフリカのビーズから分かること』、2006年5月13日、高梁市総合文化会館

(放送)

- 1) 「吉備国まるごとゼミナール(アフリカと日本のビーズ)」出演、山陽放送、2006年1月21日午後1時5分
- 2) 「吉備国まるごとゼミナール(台湾の山岳少数民族)」出演、山陽放送、2006年1月28日午後1時5分

(講演)

- 1) 「文化財としての建造物から学ぶもの」高梁市商工会議所主催、埴原邸で新春特別講演、2006年1月21日
- 2) 「日本の焼き物」講演、岡山北西ロータリークラブ、ホテルグランピア、2006年1月23日
- 3) 「サルからヒトへ」、高梁市商工会議所主催、埴原邸で新春特別講演、2006年1月28日
- 4) 「宇喜多秀家と薩摩」講演、鹿児島指宿ロイヤルホテル、2006年2月25日
- 5) 「高梁学習観光フォーラム」シンポジスト、高梁市文化交流館、2006年3月18日
- 6) 「遣唐使船で大飛島」講演、大飛島小学校、2006年3月19日
- 7) 「今何故桃太郎か」、桃太郎研究会発足記念講演、岡山市デジタルミュージアム、2006年3月26日
- 8) 「古代吉備文化」、岡山県立大学特別講義、2006年5月10日
- 9) 「古代吉備文化」、岡山県立大学特別講義、2006年5月24日
- 10) 「地域振興フォーラム in 高梁」(高梁学習観光について発表)、高梁国際ホテル、2006年6月18日
- 11) 「岡山の文化と文化財そのエッセンス」講演、御津公民館、2006年6月23日
- 12) 「ビーズの孔から覗いた過去・現在・未来」講演、吉備公民館、2006年6月24日

- 13) 「後楽園の本当の魅力を知っていますか」講演、興除公民館、2006年7月14日
- 14) 「岡山県教員10年研修古代ビーズ復元」講師、吉備国際大学、2006年7月21日
- 15) 「鬼とは何か」(鬼ノ城塾講演)、鬼ノ城カントリークラブ、2006年8月26日
- 16) 「文化財の過去から未来」シンポジウムコーディネーター、東京キャンパスイノベーションセンター東京国際会議場、2006年9月2日
- 17) 「高梁体験・学習観光フォーラム」、高梁市文化交流館ホール、2006年9月11日
- 18) 「正阿弥勝義の世界を語る」講演、朝日カルチャー講座、2006年10月7日
- 19) 「高梁学習観光」講演、高梁国際ホテル、2006年10月28日
- 20) 「知られざる後楽園」講演、吉備公民館講座、2006年11月4日
- 21) 「岡山の文化」、岡山経済同友会講演、岡山国際ホテル、2006年11月15日
- 22) 「東西における歴史の方向認識の違い」講演、エルダーホステル倶楽部講演、高梁文化交流館、2006年11月17日
- 23) 「高梁のフラクタルな魅力ーどんな時代も生き抜く強さー」、「日本のハイデルベルグ<高梁>を語るフォーラム」で講演、高梁市文化交流館中ホール、2006年11月20日
- 24) 「桃太郎に託された先人のメッセージ」講演、岡山市北公民館、2006年12月4日
- 25) 「後楽園の本当の魅力」講演、岡山市中央公民館、ハッスル大学、2006年12月5日、杉山
- 26) 「吹屋学習観光・吹屋ベンガラからのメッセージ」講演、高梁市文化会館、2006年12月9日

(研究発表)

- 1) 「高梁学園学術研究シンポジウム」(学術フロンティア事業進捗状況発表)、吉備国際大学、2006年3月10日
- 2) 「第2回高梁学園学術研究コンファレンス」で研究発表、吉備国際大学、2006年3月11日

(受賞)

- 1) 「第2回高梁学園学術研究コンファレンス加計勉賞(最高賞)」、2006年3月11日、吉備国際大学

(書評論文)

- 1) 『悲しきランユー』、「文化財保護協会だより」平成18年度前期号、岡山県文化財保護協会、2006年9月29日

(雑誌)

- 1) 「学芸員ってなあーに」(キャリア VIEW コラム執筆)、高梁学園・吉備国際大学、2006年12月18日

(学外活動)

- 1) 「岡山県文化振興基本条例策定委員会」委員
- 2) 「高梁市文化財保護審議会」委員
- 3) 「福武文化振興財団評議委員会」委員
- 4) 「陶心会展審査」委員長
- 5) 「岡山県文化振興基本条例施行」検討委員会委員

- 6) 「アジア民芸フェスティバル in 倉敷2006 実行委員会」委員
- 7) 「生涯学習フェスティバル実行委員会」委員
- 8) 「高梁市文化交流館運営委員会」委員
- 9) 「高梁市美術品等審査委員会」委員
- 10) 「後楽館中学・高校学校評議委員会」委員
- 11) 「岡山県文化振興審議会」副会長
- 12) 「両備てい園財団助成金審査委員会」委員
- 13) 「日甲研岡山・近畿支部合同研究会」支部長
- 14) 「岡山県立美術館指定管理者選定委員会」委員

大原 秀之（おおはら ひでゆき）

III. その他

（報道掲載記事）

- 1) 山陽放送「吉備国際大学・まるごと吉備国・ラジオでゼミナール」、単、2006年12月9日および16日放送

（講演）

- 1) 華鶴（はなとり）美術館記念講演「文化財の修復」、2006年3月11日、華鶴（はなとり）美術館

（研究発表）

- 1) 「額縁からみる児島虎次郎」、単、2006年9月2日、吉備国際大学・フロンティアシンポジウム『文化財化学解釈学的研究と展望』、キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場（**展覧会コンサバター**）；展覧会名称、展覧会開催期間、巡回する場合は開催美術館

- 1) 「パウラ・モーダーゾーン・ベッカー展—時代に先駆けた女性画家」、神奈川県立近代美術館・葉山、2006年1月7日~3月26日、栃木県立美術館、2006年4月2日~5月28日
- 2) 「魅惑の17-19世紀フランス絵画展」、長崎県美術館、2006年1月11日~2月12日
- 3) 「華麗なるマイセン磁器展」、東京都庭園美術館、2005年11月19日~2006年1月22日
- 4) 「ニキ・ド・サンファル展」、大阪大丸ミュージアム、東京大丸ミュージアム、名古屋市立美術館、福井市美術館、2006年3月21日~9月24日
- 5) 「ウィーン美術アカデミー名品展」、山口県立美術館、三重県立美術館、新潟県近代美術館、損保ジャパン東郷青児美術館、2006年4月7日~11月12日

（修復実績）；名称、単独・共同修復の別、作品の種類・修復期間、依頼機関

- 1) 油彩画修復；今井俊満「La Grotte de Sirene」、単、2006年1月~5月、千葉市美術館
- 2) 立体作品；草間弥生「金色のイスのオブジェ」、単、2006年7月~10月、高松市美術館
- 3) 立体作品；河口龍夫「関係—種子・夏の未来」、単、2006年7月、広島市現代美術館
- 4) 油彩画修復；高松次郎「N o. 371」、単、2006年7月~10月、高松市美術館

下山 進 (しもやま すすむ)

I 著訳書

- 1) 「尚家継承染織品の染料・顔料非破壊分析調査」、共、那覇市歴史博物館編「国宝『琉球国王尚家関係資料』のすべて」、pp.296-298、2006年7月1日、沖縄タイムス社

II 学術論文

- 1) 「光ファイバー接続簡易携帯型分光器を用いる可視-近赤外反射スペクトルによる浮世絵版画青色着色料の非破壊同定」、共、分析化学、第55巻第2号、pp.121-126、2006年2月5日
- 2) “Non-Destructive Analysis of Blue Colouring Matters Found in Traditional Japanese Ukiyo-e Prints”、Non-destructive Examination of Cultural Objects – Recent Advances in X-ray Analysis – (The 28th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property)、p.p.127-133、2006年3月1日 (National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo 東京文化財研究所) (単著)
- 3) 「浮世絵版画に使用された青色着色料の研究」、共、文化財情報学研究、第3号、pp.21-28、2006年3月10日
- 4) 「浮世版画青色絵具の非破壊同定分析に基づく役者錦絵のベルリン・ブルー (ペロ) 導入過程の研究-江戸錦絵ペロ導入主要期天保1年後半説の確証-」、共、早稲田大学坪内博士記念博物館「演劇研究」、第29号、pp.37-67、2006年3月30日

III その他

(学会発表)

- 1) 「東洋絵画修復用補彩絵具の新しい試み」、共、文化財保存修復学会 第28回大会、東京・国士舘大学、2006年6月4日

(研究発表)

- 1) 「文化財保存修復学オンデマンド授業コンテンツの体系化」、単、三大学 (岡山理科大学・岡山大学・吉備国際大学) 合同シンポジウム“教育の情報化フォーラム”、岡山理科大学40周年記念館、2006年3月17日
- 2) 「浮世絵版画に見られる青」、単、吉備国際大学 学術フロンティアシンポジウム“文化財科学解釈学的研究と展望”、吉備国際大学 文化財総合研究センター、キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場、2006年9月2日

(学術研究会)

- 1) 「分野融合フォーラム“伝統工芸と科学技術～故きをもって新しきを知る・自然に根ざした伝統工芸と科学技術の『場 (Interaction Fields)』の構築～”」、ディスカッションメンバー、主催：独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター、ホリディ・イン京都、2006年12月2日～3日

(学術講演)

- 1) 「文化財を科学する」、共、東京倶楽部講演午餐会 社団法人 東京倶楽部、平成2006年7月11日
- 2) 「私たちの歴史の中で生まれた文化財の修復から学ぶ」、共、生涯学習講座 (吉備国際大学平成

18年度のびのびキャンパス岡山大学院コース「生活と福祉」、吉備国際大学、2006年8月29日

(科研費等外部資金獲得研究報告書)

- 1) H14～17年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書「歴史的建造物における塗装の変遷に関する研究」、共、2006年3月
- 2) 「日本画・油彩画修復技術のデジタル・アーカイブ化に関する調査・研究事業」、共、文化庁(総務省連携)「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究事業」、2006年3月31日

(文化財非破壊調査)

- 1) 「土佐光芳“夏秋草屏風”絵具非破壊分析調査」、単、平成17年度 杉並区文化・交流協会美術展)、2006年2月18日、報告書:2006年4月9日提出
- 2) 「沖縄県那覇市所蔵“国宝 琉球王国尚家関係資料(染織品)”の色材調査」、単、那覇市歴史博物館、2006年9月5日～11日、報告書:2006年10月28日提出

(報道掲載記事)

- 1) NHK岡山「キビキビネット“岡山研究最前線”吉備国際大学 文化財総合研究センター 2006年6月2日放映
- 2) 琉球放送 RBC サマーセレクション「琉球の至宝～遺された王国の美～」、2006年7月27日放映
- 3) RSK「吉備国際大学・まるごと吉備国・ラジオでゼミナール」、山陽放送、2006年11月18日および25日放送

高木 秀明 (たかぎ ひであき)

II 学術論文

- 1) 「埋蔵文化財調査記録写真資料の整理とデジタル化について」、共、『文化財情報学研究』、第3号、pp.39～49、2006年3月10日
- 2) "Syntheses and Characterization of Oxygen/Sulfur-Bridged Incomplete Cubane-Type Clusters, $[\text{Mo}_3\text{S}_4\text{Tp}_3]^+$ and $[\text{Mo}_3\text{OS}_3\text{Tp}_3]^+$, and a Mixed-Metal Cubane-Type Cluster, $[\text{Mo}_3\text{FeS}_4\text{ClTp}_3]$. X-ray Structures of $[\text{Mo}_3\text{S}_4\text{Tp}_3]\text{Cl}$, $[\text{Mo}_3\text{OS}_3\text{Tp}_3]\text{PF}_6$, and $[\text{Mo}_3\text{FeS}_4\text{ClTp}_3]$ ", *Inorganic Chemistry*, 45(14), pp.5429-5437, July 10, 2006. (共著)

III その他

(研究発表)

- 1) 「金属錯体の電気化学応答によるセンサーの開発」、単、2006年2月28日、平成18年度「大学発! 技術シーズ発信会」(財)岡山県産業振興財団主催、岡山ロイヤルホテル

馬場 秀雄 (ばば ひでお)

II 学術論文

- 1) 「吉田初三郎・伯備線沿線鳥瞰図修復についての一考察」、単、『文化財情報学研究』、第3号、pp.29～37、2006年3月10日

III その他

(研究発表)

- 1) 「吉田初三郎・伯備線沿線鳥瞰図修復についての一考察」、単、2006年3月11日、第2回高梁学園学術研究コンファレンス、吉備国際大学7号館
- 2) 「李朝屏風様式と構造」、単、2006年9月2日、吉備国際大学・フロンティアシンポジウム『文化財化学解釈学的研究と展望』、キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場

(報道掲載記事)

- 1) 毎日新聞連載記事「よみがえる文化財“美術品修復の現場から”」、単、2006年1月14日第17回「膠絵って何?」、2006年1月21日第18回「膠絵・書を『着物』で装う」、2006年1月28日第19回「膠絵は定期修復が必要」、2006年2月4日第20回「修復過程にも多くの情報」、2006年2月11日第21回「広がった国際協力」

(地域連携)

- 1) 学習観光フォーラム「高梁地域における学習観光事業の可能性を拓く」、「学習観光の可能性」、シンポジウム・パネラー、2006年3月18日、高梁市文化交流館中ホール

(修復実績)；名称、単独・共同修復の別、修復期間、依頼機関

- 1) 染め型絵修復 芹沢圭介「雛」、単、2006年3月～2006年12月、倉敷民藝館蔵
- 2) 古地図修復 伊能忠敬「日本地図」単 2006年8月～2006年11月、那谷寺蔵
- 3) 現代日本画修復土岐佳子「生」、単、2006年9月～2006年12月、金沢美実工芸大学蔵

(受賞)

- 1) 「第2回高梁学園学術コンファレンス奨励賞」 2006年3月11日 吉備国際大学7号館

(図録)

- 1) 「日本画・油彩画 修復技術のデジタル・アーカイブ」、共、平成18年3月31日、文化庁（総務省連携）

